

持っている力をできるだけ発揮し、 色々な活動に楽しんで参加する子

岸 田 富 夫

はじめに

小学部時代K男は、過保護による甘え、わがままから、依存的に過ごし、力はあるのになかなかそれが発揮できなかった。しかし、中学部に入学してからは、自分の好きな場面で参加できる遊びの労働を中心とした生活や、また、厳しく指導したり、見守ったりする家庭的な雰囲気の中で、他律的ではあるが、自分を励ましなが、自分の持っている力を少しずつ発揮し、中学部の生活に楽しんで参加していった。その例について述べてみたい。



1. プロフィール

(1) 生育歴

- ・昭和52年5月23日生 13歳4か月 小学部1年男子
- ・熟産、帝王切開、大声で泣かず、哺乳力も弱い。
- ・1歳6か月の時、ダウン症候群と診断。
- ・2歳、歩行器使用。
- ・3歳6か月、県立寮育園に入園。
- ・5歳、若草学園入園。
- ・6歳11か月本校小学部に入学。2、3年生の時に、抽出養訓を受け、よく歩けるようになる。
- ・1987. 6月に、県立中央病院より両外反足と診断。両足底装具を装着。
- ・12歳11か月本校中学部に入学。

(2) 諸検査等による実態

- ・身長154.2cm、体重58.2kg、ローレル指数159（太っている）
- ・発達年齢（津守式乳幼児発達診断 H. 2. 4）

運 動	探 索	社 会	生活習慣	言 語
2 歳	1 歳 9 月	2 歳	2 歳 6 月	3 歳

- ・MEPA（89頁参照）では、第4ステージが中心であるが、運動・感覚の姿勢、言語の表出で、落込みを見せる。実際の生活行動では、気分や思い、やる気などに左右されて、得点ほど活動できておらず、横着、怠け者の印象を受ける。

(3) 行動特性

- ・動作が緩慢で、依存心が強く、集団行動に遅れがちだが、自分の必要な時の動作は素早い。
- ・表出言語が少なく、身振りや、意思を伝えようとしがち。

- ・人懐っこいが、時々いたづらをし、相手の様子を見ることがある。
- ・自分の気に入らないことや、思い通りにならないことがあると、唇に爪を立てたりする自傷行為がある。

2. 取り組みの構想

K男の実態や諸検査等から次のような指導構想を立てて実践していくことにした。

(1) 指導仮説

肥満からくる運動の技能の遅れを配慮しつつ、教師と一緒に、自分のやりたいことや自分なりの参加が出来る生活単元学習に取り組み、持っている力を教師や、友達に認められることは、よりよい行動をする力や、目的に向かう集中力を養い、更に色々な活動に取り組む意欲、持久力を育てる。

(2) 指導方針

- ・出来ないところからさせないのではなく、どんなことでも、一応させてみて、最初は、手伝ってでも、成功体験や、成就感、完成の喜びを持たせる。
- ・生活単元学習や、日常生活に、楽しいこと、好きなこと、出来ることを取り入れ、友達に認めさせると共に、自分自身にも、自分の力に気付かせる。
- ・徐々に出来ることは自分でさせ、親や教師に対する甘えをなるべく出させないようにする。

3. 指導の実際

(1) 生活単元学習

① 野外炊飯

野外炊飯は、中学部が、最初に取り組む大きな単元で、水以外には何も無い場所に行き、お昼を自分達で準備する活動である。何も無いので、自分達で、竈や、薪、お昼の材料を運搬しなければならない。また、この活動のために、食事用のテーブル、椅子、ランチマット等も、製作・準備するのである。よって、自分のことは自分でするというのが、基本的な考え方であった。このことは、K男にとって、自分の持っている力を引き出す手だてになると思われた。

焼きそば作り …食べることには、積極的に参加し、意外にうまく材料などを切ってみせる。時々、わざと手に包丁を当てて、教師の反応を見たりする。

木工 …最初は、全然興味のなかった鋸を、薪作りで、(テーブル、椅子) 担任と一緒に挽く。薪作りの繰り返しにより、木工具に関心を持ち、自ら挽くようになる。椅子作りでの釘打ち、ペンキ塗りと頑張る。



野外炊飯当日 …ぶつぶつ文句を言い、途中で、一斗缶で作った竈を放り出しながらも自分で

やらなければ食事が出来ないことがわかっていて、目的地まで運び終わる。

K男にとって、楽しいことや、興味のあることは、多少の障害も、乗り越えることが出来る。

② 臨海学校

臨海学校は、プール学習を生かす絶好の单元であるが、泳ぐだけではなく、夕べの集いとして、クラスの出し物などをみんなに発表したりする場でもある。1年生としては、太鼓を叩いてみんなに踊ったり歌ったりしてもらおうということになり、出し物は、太鼓を叩くことになった。

野外炊飯でのK男の頑張りから、自分のことはほぼ、自分で出来ることが分かったのだが、今回も余り無理強いせず、出来る範囲での参加と、人に迷惑を掛けないようにすることを考え、5分前には行動することに、気を付けた。

出し物練習 …最初、出し物の練習でばちを受け取っても、何をやるものか理解できず、きょとんとした様子。クラスみんなが楽しそうに、ばちを使って音楽に合わせて太鼓を叩くのと、彼自身が、音楽好きで、リズムに合わせてからだを動かすので、すぐに太鼓を叩きだす。教師に合わず叩き方ではなく、自由な叩き方ではあるが、殆ど毎日の朝の会・帰りの会には、太鼓を叩く練習をし、叩きながら担任に笑顔を見せる余裕すらできるようになる。

臨海当日 …5分前行動を生かし、集団行動に迷惑を掛けることは殆どなかったが、宿舎から海岸に出る時や、逆の時に、焼けた砂の上を慣れないビーチサンダルで歩くため、普段余り声を出したがる彼が、ぶつぶつ、やがてわめくように「あつよいよー、うおー」と、喋り出す。そして、座り込もうとするのであるが、焼けた砂の上では、それも出来ず、「助けてー」と涙声になる。が、誰も助けないため、彼は、ぶつぶつ言いながら宿舎まで30分かけて、移動した。



③ 運動会

運動会は、体育的行事であるが、競走等は、本人のやる気等が問われる競技である。運動会には、中学部個人種目として、「100メートル走」「みんな働き者」、団体種目として、「大玉ころがし」、団体演技として「組体操」等がある。走る、跳ぶ等の運動技能に遅れを持つK男の、運動会での様子を報告する。

100メートル走 …マイペースで、競歩のような走り方だった。

少しすると手がぶらっと下がり、スピードが落ちるが、声かけにより、自分で、手を振って走り続けた。

みんな働き者 …最初、ねこ車をコントロール出来ず、よたよたして、薪を積むのさえ、教師に持ち上げてもらっていたK男だが、4回の練習のうちに、自分から、薪を積み、ゴールに向かって進むようになった。



組体操 …室内の練習では、場所移動などに補助が必要であるが、演技そのものは殆

んど声掛けによって出来た。外の練習や運動会当日では、手が砂で汚れるのが嫌で、なかなか四つばいになろうとせず他の演技に変わってしまった。

何でもマイペースで行動する彼であったが、練習をするにつれ、競争心が芽生えたのか、まわりを意識しだし、歩く姿勢から、走る姿勢へと変化した。



(2) 日常生活での取り組み

1学期当初、K男も、中学生になったという自覚があり、問題行動も少なかったが、徐々に緊張がほぐれ、担任の対応を試す場面が多くなった。前述の指導方針に沿って対応することをペアの教師と打ち合わせて取り組んだ。

- ・待つ姿勢 …とにかく、時間の許す限り、K男が取り組み始めるのを待ってみる。
- ・厳しさと優しさ…自分でしなくてはならないことは、絶対にさせる。その代わり、出来た時には充分誉める。
- ・家庭的な雰囲気…少人数のクラス集団を生かし、家庭的な雰囲気を大切にして、学習を進める。

4. 指導の結果

MEPAによる変容を右図に示す。全体的に余り伸びは見られないが、運動・感覚分野での欠落部分を埋める形での力の充実が見られる。

また、このような評価表には現れない精神的な伸びにも触れなければならない。特に、運動会で見せた「やる気」「競争しようとする気持ち」等は、それまでK男が見せなかったものである。(■が変容)

学年	7	6	5	4	3	2	1
7	61-77	28	28	28	27	27	28
6	40-60	27	27	27	25	25	27
5	37-48	25	25	25	23	23	25
4	19-38	22	21	21	21	21	21
		19	18	18	17	17	18
		17	17	17	17	15	17
3	13-18	16	15	15	14	14	16
		15	14	14	13	13	15
		14	14	14	12	12	14
2	7-12	12	11	11	11	11	11
		11	11	11	9	9	11
		10	10	10	8	8	10
1	0-6	9	8	8	7	7	9
		8	7	7	6	6	8
		7	6	6	5	5	7
6	5	5	4	4	6		
5	4	4	3	3	5		
4	3	3	2	2	4		
3	2	2	1	1	3		
2	1	1	1	1	2		
1	1	1	1	1	1		

5. 考察

自分の好きな事で学習に参加できる生活単元学習は、中学部に入ってから不安なK男にとって、丁度良い、中学生活の導入であったと考える。また、「遊び的労働」は、経験の不足気味の生活でも、自分なりに楽しめることと、担任の「待つ姿勢」や「厳しい姿勢」から、新しい経験の拡大が図れたと考える。

また、出来たことを誉めることにより、次の新しい経験への意欲を持つことができ、運動会では、競争心らしきものまで感じられた。



6. 今後の課題

常にK男が、いきいきと取り組める学校生活の準備や、好きなことだけでなく、仕事や労働等、どんな活動でも取り組める態度作り等、残される課題は多い。また、今回は取り上げなかったが、K男の動作の緩慢さの原因となっている肥満の解消への取り組みも、大切な課題と考えている。